



昭和大学
SHOWA University

一昭和大学歯科病院の理念一

患者本位の医療
先進的医療の推進
良き医療人の育成

発行責任者 病院長 馬場 一美
編集責任者 広報委員長 長谷川 篤司
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151(代表)
いちいちごいち

ホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

退任のご挨拶 『皆様への感謝を込めて』

昭和大学歯学部長、昭和大学歯学部歯科矯正学講座教授 榎 宏太郎

私は、1984年に本学歯学部を卒業後、およそ40年に渡り、この歯科病院の5階で矯正診療に従事させていただきました。

ご存知のように、矯正歯科では、歯並びを治すための少し特殊な技術が要求されます。例えば、歯を動かすには、歯の表面に接着した装置に細いワイヤーをセットして、そのワイヤーが元の形に戻ろうとする力を利用しますが、それぞれの患者さんの歯列に適切な形状にワイヤーを曲げなければなりません。また、診断時には、歯をどのくらい移動すべきかを定めるために、頭部の骨と歯の位置関係も綿密に調べる必要があります。そのため、入局した新人の頃は、ひたすら、このワイヤーを思い通りの形に曲げる練習や頭部X線規格写真（セファロ）と呼ばれるレントゲンの分析を続けていたのを思い出します。

また、診療と同様に、大学の歯科矯正学講座には、科学としての矯正学を進歩させることと後進を育成するという大きな目的もあります。私の研究テーマは、骨の形や

歯の位置を3次元的に観察する方法の開発や、審美的に優れた透明な矯正装置の臨床応用、治療期間を短縮する装置の開発、そして、治療の危険性を学生に教えるためのロボットの開発などでした。とくに、留学先のUCSFや企業との共同研究はとても心躍るものでした。

そして、このような研究のテーマを授けてくれたのは、全て患者さんの訴えや治療中に遭遇した困難性でした。天の配剤と思えるほど、いろいろな場面でさまざまな『気付き』を与えていただいたのです。

矯正治療は期間が長いこともあり、ほとんど全ての患者さんの口の中を覚えております。

ここに改めて皆様との素晴らしい出会いに感謝し、さらなるご健勝を祈念いたしまして、お別れのご挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。



- P1 巻頭言 退任のご挨拶 皆様への感謝を込めて
- P2 退任のご挨拶
- P3 退任のご挨拶
- P4 退任のご挨拶、業務カイゼンの会報告会での表彰
編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。

患者さん向け、医療機関向け、お知らせなど

退任のご挨拶

歯科放射線科 診療科長・教授 荒木 和之

1996年4月に昭和大学に赴任し、以来あっという間に27年が経ちました。その間、歯科病院歯科放射線科に所属し、2016年からは歯科放射線科科長を拝命しました。

歯科放射線科では診療放射線技師の方々とともに、歯や顎口腔領域のさまざまな病変の画像検査・画像診断にあたりました。以前は口内法X線検査などの一般撮影法に加えて、特殊検査では断層撮影法などが利用されてきました。現在では歯科用コーンビームCTやCTで病変を三次元的に把握するのが一般的になり隔世の感があります。

これから病気の診断における画像検査はますます重要になってくると思われます。歯科放射線科は新しいスタッフとなりますが、病

気の適切な診断に役立つよう頑張ってくれと思います。これからも皆様のご支援をお願いいたします。

末筆になりましたが、歯科病院の皆様には長い間お世話になり、ありがとうございました。昭和大学歯科病院がさらに発展することを祈念しております。



CTと歯科用コーンビームCT

退任のご挨拶

高齢者歯科 診療科長・教授 佐藤 裕二

2002年から新たに設置された高齢者歯科を担当させていただきました。日本の当時の高齢化率（65歳以上の方の人口割合）は18.5%で、当科の治療は主に入れ歯（義歯）でしたが、高齢者の歯の数が増え、歯周病やう蝕の治療が増えてきました。現在の高齢化率は約30%に増加し、歯が揃っていても、咬む、飲み込む、しゃべるなどの「お口の機能の低下（オーラルフレイル）」が注目されるようになってきました。

当科では、全国に先駆けて、2018年にあらたに医療保険に導入された「口腔機能低下症」の検査と管理を充実させ、「お口年齢」を計算する方法をあらたに開発し、患者さんにわかりやすい説明を行ってきて、マスコミ

等にも取り上げられてきました。これまでご支援下さいました皆様に厚くお礼申し上げます。

日本歯科医師会の8020テレビという一般の方向けのネットテレビで、「早く気づいて対策を！オーラルフレイル」という7分間の番組に出ました。オンデマンドですので、セリフ棒読みの大根役者ぶりを笑ってください。「Q 8020テレビ」で検索できます。

4月から診療科名は、幅広い年代の患者さんに対応するため、「口腔機能管理科」に変更になりますが、引き続き、よろしくお願いいたします。

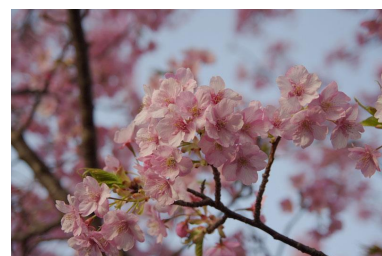


退任のご挨拶

歯科麻酔科 診療科長・教授 飯島 毅彦

2011年4月に歯科病院歯科麻酔科診療科長を拝命してから早くも12年が経ちました。歯科病院では、一般歯科診療所では管理が難しい患者さんも多く紹介され、合併症の管理など高度な全身管理を行なうことで安全な歯科治療を行っています。歯科麻酔科が担当する麻酔管理が必要な患者さんは、手術を受ける口腔外科の患者さんの他、歯科治療恐怖症、嘔吐反射が強く、麻酔なしでは歯科治療が受けられない患者さん、全身疾患を持った患者さんがいらっしゃいます。歯科麻酔科では、これらの高度な全身管理に対応するために多くの歯科麻酔専門医を育成してきました。現在は歯科病院には8名の歯科麻酔専門医と4名の歯科麻酔認定医が診療に携わっており、全

国で最も歯科麻酔の専門性を発揮した歯科病院になっています。また、麻酔管理症例数は年間3,000例を超えており、全身麻酔件数は約1,400件に上っています。これも全国屈指の症例数になっています。昭和大学歯科病院は私の退任後も歯科麻酔の専門性を活かした高度な歯科医療を提供していきます。



退任のご挨拶

歯科放射線科 診療科長補佐・准教授 関 健次

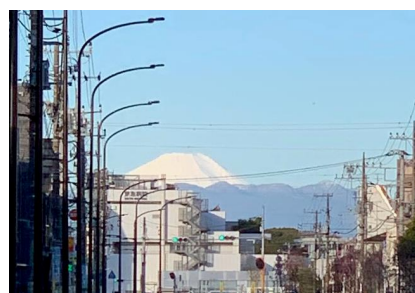
1990年に歯科病院にCT装置が初めて導入され、現在はコーンビームタイプのCTも2台加わり、多くの検査ができるようになりました。CT導入当初からインプラントの画像検査に深くかかわるようになり、CT検査の重要性を病院内外に広めてきました。その結果、より安全なインプラント治療のために、CTを撮影するのが当たり前になりました。

しかし、装置が増え検査数が増えても、人が同じように増えたわけではありませんでしたので、検査の予約が入らないとお叱りをいただくことも多々あり、各科の先生方や患者さんにご迷惑をおかけすることになりました。

今後は若いスタッフが知恵を絞り、効率の

良い検査体制を築くことで、サービスの向上を図っていただけるものと期待しております。

最後になりますが、歯科放射線科の医局員や診療放射線技師をはじめ、病院スタッフの方に大変お世話になりました。無事定年を迎えることができ、感謝申し上げます。



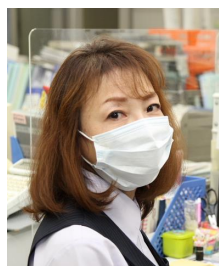
北千束五差路からの富士山

定年退職者のご挨拶



私は約40年間看護師として働いて参りました。看護ケアが手際よく出来ず上司に叱られた事、亡くなった方の奥さんと一緒に泣いてしまった事、助けてあげられなかった悔しさ、今思えばとても大切な思い出になりました。部署は変わりますが、仕事を続けることでいろんな方々と交流し、看護師としての役割を果たせて行けたらいいなと考えています。

歯科病院看護師 佐藤 薫



昭和58年4月に入職し、40年歯科病院にお世話になりました。入職時は管財を担当し、学生技工室の物品貸与も行っておりましたので、若いころをご存じの先生もあり、たまに昔話に花が咲く事があります。ここ数年は歯科医師の臨床研修に携わり最初に関わった研修医の先生方はすでに助教となり、歯科病院を支えており大変心強く頼もしく思っております。

退職に当たり偏に皆様のお陰と感謝申し上げます。

事務課管理係 岸水 博子

【令和4年度(第15回)業務カイゼンの会報告会】で個人大賞を受賞しました 歯科技工室

当院、歯科技工室の古舘美弥が、令和4年12月8日に上條記念館で開催された業務カイゼンの会報告会にてカイゼン個人大賞を受賞しました。

法人本部および各附属病院の多職種からなる7グループ・29名がそれぞれグループおよび個人で発表を行い、部課長会メンバーと発表者の所属長による投票が行われました。

各発表は業務の効率化や、職場環境の向上、患者さんに対する心遣い等、どの発表が受賞してもおかしくない内容で、古舘技工士

は職場での作業において、ストレスの軽減と快適化を発表し、そのアイデアが高く評価され同賞に選定されました。

本人コメント

カイゼンの会のモットーである、「手間とお金をかけずに工夫を意識した小さなカイゼン」を実施できました。今後も周りに目を向けて、日頃から改善活動に取り組んでまいります。



編集後記

穏やかな日ざしに、いつしか春の訪れを感じる季節となりました。

3月13日からマスク着用のルールが緩和されますが、当院へご来院される方は、引き続きマスクの着用をお願いいたします。また正面入口での手指消毒・体温チェックのご協力もお願いいたします。(K.I)

